information

富士市民活動センター　コミュニティｆ
コミュニティｆは富士市内の市民活動を応援するための施設です。

団体登録 要　事前予約 要　**ミーティングルーム**　節電対策☆　空気循環のため、パーテーションは最小限。

常時は１ブース12名の配置ですが、人数や会議スタイルによって50名ほどまで対応できます。

団体登録 要　事前予約 要　**特別会議室**　節電対策☆　なるべく扉開放。エアコンの効きが悪いことをご了承下さい。

定員12名の完全個室の会議室です。経営的な会議や、相談業務などにご利用下さい。

団体登録 不要　事前予約 不要　**フリースペース**

ネット閲覧PC3台常設。自動販売機もありますので、ちょっとした打合せや休憩にご利用下さい。

印刷サービス

オルフィス

片面・両面印刷対応。資料作成などにご利用下さい。

超厚手マットも新登場!!

（※注）印刷は合計10枚以上からのご利用となります

	普通紙	厚手マット紙	両面加算
白黒 A4	3円	6円	2円
白黒 A3	4円	9円	2円
カラー A4	11円	14円	10円
カラー A3	12円	17円	10円

大判印刷

A1判・A2判・横断幕の印刷も可能です。
- A1判…800円
- A2判…400円
- 横断幕（1mあたり）…1000円

断裁機、折り機、丁合機も揃っています

裁断機

最大断裁厚約200枚、断裁奥行：310mm（A4長辺）まで裁断可能です。

無料

折り機

ご希望の折り方に折る機械です。用紙サイズにより不可ありです。

無料

丁合機

複数の印刷物を頁順に並べ揃える機械です。

無料

■ イベント・団体PRなどのチラシ同封サービス

本誌「コミュｆニュース」は偶数月の１５日に富士市や静岡県下の約300箇所の団体・公共機関に郵送しております。本誌発送時にイベント情報などのチラシを同封いたします。詳しくはセンターまでお問合せ下さい。

■ 夏の会議室の利用について

コミュｆ館内の風通しをよくするため、会議室の区切りとして利用しているパーテーションの利用を最小限にしていくようお願いしています。また、特別会議室の利用に関しては、なるべく扉の開放をお願いしております。皆様のご協力お願いいたします。

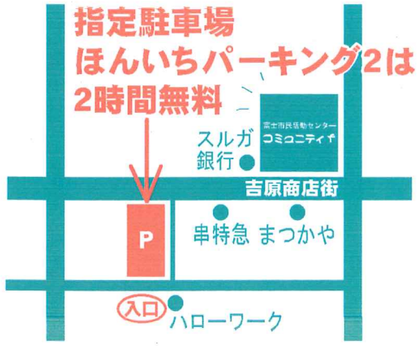
■ その他のサービス

メールボックス、ロッカー、インターネット利用は無料でご利用いただけます。

その他**ＮＰＯ設立相談、イベント支援、プレスリリースなど**の相談を承ります

コミュニティｆ
富士市民活動センター

E-mail　info@com-f.net
ＨＰ　http://www.com-f.net
開館時間　月曜ー土曜10:00～22:00　日曜・祝日10:00～17:00
休館日　12月29日～1月3日
富士市吉原2-10-20　ラクロス吉原2階



編集後記

東日本大震災の影響で吉原祇園際や富士まつりが縮小され、ちょっと元気のない富士市。そんな中、吉原のまちなかを音楽でいっぱいにしようという「よしわらジュークボックス」が8月27日（土）、はしご酒のイベント「吉原バル」と同時に開催予定です。フラっと立ち寄りったお店や軒先、商店街の路地裏や空き地、あちらこちらでアマチュアミュージシャンたちが夏の夜にメロディを奏でます。夏の電力不足に見えない不安はありますが、つかの間、音楽で酔いしれましょう♪お楽しみに。

富士市民活動センター・コミュニティｆは、ＮＰＯ法人東海道・吉原宿が指定管理者として運営を行っています

市民活動を応援するセンターの情報誌　**編集・発行**

コミュニティｆ
富士市民活動センター

コミュｆニュース

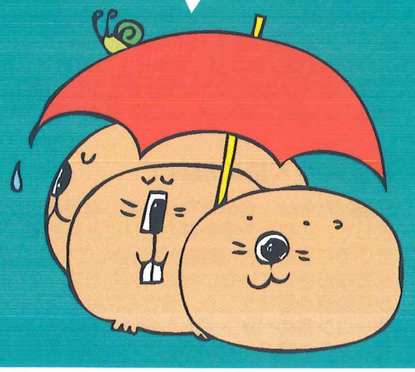
2011.06.15発行
第１７号

富士市民活動センター
コミュニティｆ
富士市吉原 2－10－20
TEL 0545-57-1221
FAX 0545-57-1091
ホームページ
http://www.com-f.net

特集 ●

東日本大震災 あなたにもできること

コミュｆ 節電営業中



ホームページ　http://com-f.net/
ブログ　http://blog.canpan.info/com-f/

コミュニティｆ　検索

コラム　そこが知りたい！コラム
コミュニティビジネスって何？

なかま　い・ろ・ん・な・な・か・ま
NPO法人 富士市手をつなぐ育成会 理事長 **鳥居巖**氏

掲示板　市民活動団体からの
催事・お知らせ

助成金　**NPO支援助成金情報**

その他　夏の節電対策
コミュｆの取り組み
イベントなど
情報募集中です

この冊子はコミュニティｆの印刷機オルフィスで印刷されてます。

特集

東日本大震災 あなたにもできること

未曾有の大震災から3ヶ月。仮設住宅の入居や道路、ライフラインの整備など、復興の兆しが着実に見えてきた一方で、福島第一原発問題によるこの夏の電力供給不足や食の安全に不安は拭いきれません。

地震発生時以後、富士市からも災害支援に行政・民間・一般・NPO関係者がボランティアスタッフとして現地を訪れています。果たしてNPOや市民活動団体は今回の震災に際しどう関わったのか？何が出来たのか―？緊急レポートです。

■NPO法人 ゆめ・まち・ねっと

子どもの遊び場作りに取り組んでいる、NPO法人ゆめ･まち･ねっとは、震災から約１ヶ月後の4月20日～21日、まだ道路の整備もままならない被災地へ支援物資を運び、現地で輸送の手伝いを行ってきました。

支援物資を積んで

宮城県大崎市「NPO法人田んぼ」の支援要請に応じ、冒険遊び場たごっこパークの常連っ子たちから募ったマンガ本や図鑑、絵本などを段ボール13箱分と冒険遊び場用にストックしていた鍋やフライパンを段ボール3箱分やロールタイプのブルーシート2巻などをハイエースに積みこみ、宮城県登米市の「ＲＱ市民災害救援センター」に届けました。物資を届けた後は登米市の救援センターから気仙沼市へ水や食料を運びました。車両不足の中、ワゴン車が大変役に立ちました。

東北の人情に触れて

届けた先は、自分たちが被災しながらもご近所のリーダーとして、必要な救援物資の取りまとめと受け入れ、配布をしているご家庭2軒。避難所生活はしていないが、水や電気はまだ復旧をしていない地区の人たちで、二日間救援センターから物資を届けました。皆さんにはご苦労の中、コーヒーやウーロン茶のペットボトルをいただいた上に、「もう少ししたらタラの芽がいっぱい出てくっから送るっぺよ。」と人情いっぱいの応対に頭が下がりました。冒険遊び場たごっこパークのことを話すと、「今は人の繋がりがどんどんなくなってるから、そういうことがやっぱり大事なんだと思うよ。」と言って下さいました。

現実を目の当たりにして

物資を届けに行きつつ、その方々に勧められて、付近の被災状況も少し見て歩きました。その途中で津波で流された木々が何重にも重なっている茂みの下に、偶然、ご遺体を発見しました。近くにあった自衛隊の現地災害対策支部のようなところへ行き、発見場所まで隊員たちを案内しました。隊員たちは、ご遺体が損傷しないように丁寧に木々の除去作業をし、収容してくれました。作業に当たった隊員10名ほどと一緒にご遺体に黙祷し、現地をあとにしました。

前出のお届け先家庭のご夫婦にそのことを報告すると、「40日間ずっと発見してもらえるのを待ってたんだろうねぇ。」と発見したことに感謝をしてくださいました。「本当は自分たちで行方不明者や遺体の捜索もしなくちゃいけねぇんだけど、何せ手が回らねぇ。朝起きて、毎日毎日、被災したまちの状況を見るのも辛いから、早く復旧してほしいけど、そうもいかねぇ状況なのも承知してるから仕方ねぇ。」といったこともおっしゃっていました。

この先まだまだいろんな形でたくさんの人手が必要なことを改めて感じました。

瓦礫ではなく生活の痕跡

現地へ行く前に報道で大量に目にしていた「瓦礫の山」。でも実際にその「瓦礫の山」を歩いてみると、結婚式の記念写真があったり、病院の診察券があったり、ランドセルがあったり、音楽CDがあったり…。それは「瓦礫の山」ではなく、当地の人たちの「生活の痕跡」なんだと実感し、3月11日までは確かにそこに人々の日々の何気ない営みがあったんだと思い、胸に迫るものがありました。

「気い付けて帰って、また、来てくれよ。」と笑顔で送り出してくださったみなさんのところへまた必ず伺って、ほんの少しのことしかできませんが何かお手伝いができたらと思いながら帰路に着きました。

（文：ゆめ･まち･ねっと 渡部 達也）

緊急告知

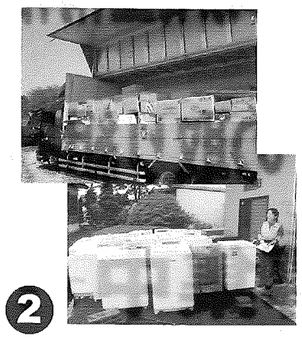
NPO EXPO 1
ゆめ･まち･ねっと 報告会＆学習会

今回の経験を踏まえ、これからボランティア支援を考えている方に報告会を兼ねた学習会を開催します。奮ってご参加下さい。

『気仙沼でのささやかな支援』
～NPOのつながりの中で～

日　時：6月29日(水)
時　間：19:00～21:00
場　所：コミュニティｆ
募　集：40名(要予約)
参加費：無料

■NPO法人 富士市のごみを考える会



南三陸町出身で、NPO法人富士市のごみを考える会の会員渡邉さんの地元町内会や富士ニュースでの市民への呼びかけなどで、新品を含む中古洗濯機42台とトイレットペーパー40ケース、洗剤11ケース、ティッシュ10ケースなどが集まり、4月28日に南三陸町へ届けました。

また、東北に5万円の義援金と、リユース食器4690個を送りました。

■NPO法人 楽しいことやら座

高齢の方や障害をもつ方と子ども達のコミュニケーション活動を行っている、NPO法人楽しいことやら座と同スポンサーの㈱コーチョーは、富士市の獣医師鈴木先生や日本獣医師会の要請を受け、4月15日に福島県～宮城県の7獣医師会と避難所に、携帯トイレにも活用できるペットシーツを届けました。

また5月23日には富士市福祉課の依頼により、宮城県亘利町へ大人用紙オムツを100ケースほど支援しました。

紙のまち富士市ならではの支援です。

ボランティア体験記

新しい被災地支援の可能性を考える

荻野幸太郎（NPO法人プラットフォーム静岡代表）

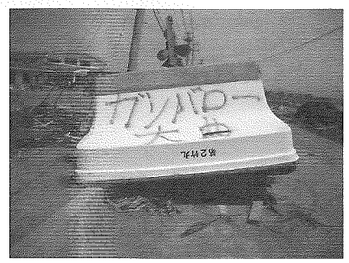
5月6日の午後10時。三島の伊豆箱根鉄道本社から、一台の大型バスが出発した。行き先は、3月11日の大津波で甚大な被害を受けた宮城県の東松島。途中、東京駅からも参加者が乗り込み、合計36人のボランティアが、翌7日に東松島の大曲ボランティアセンターに到着。降り立ったボランティアたちは、午前9時くらいから作業を開始して、午後3時まで、民家でのヘドロのかき出し作業や、ガレキの撤去作業に従事した。

報道では、ゴールデン・ウィーク期間中は全国からボランティア希望者が殺到し、人手が余って何もできないまま帰らざるを得ない人が続出したとのことであったが、私たちが参加した大曲地区は、5月7日において、そんな状況にはなかった。張り出された住宅地図には、ボランティア派遣を希望する世帯がそこかしこにマークされており、人手が足りないことは火を見るよりも明らかだった。

センターから徒歩で、作業依頼のあった民家に向かう。街は、見渡す限りヘドロで埋め尽くされていた。道路に横たわる漁船の残骸や、田んぼに埋まってしまった自動車が散見され、家々の壁には、その高さまで海水に漬かったことを示す変色したラインが、定規で引いたような直線で続いていた。

途中、風が吹き始めると、ほんの数メートル先が見えなくなるほど砂埃が立ちこめ、化学物質特有の刺激臭が漂ってくる。

そんな場所にたくさんの人が留まって、生活を立て直そうとしていた。



私たちのチームが担当したのは、老夫婦が暮らす二階建ての住宅だった。一階の床下を覆うヘドロの除去が私たちの仕事だった。最初、スコップで掘り返そうとしたが、ヘドロは簡単に掬い取れない。色々と試行錯誤の末、私たちはスコップで切り込みを入れてブロック状に分割したヘドロを、手でかき出すことにした。

昼食をはさんで約5時間の作業で、一軒分のヘドロをほぼ完全に片付けることができた。帰り際、ふとゴミの集積場を改めて確認すると、積みあがったヘドロが、まるで日干し煉瓦のように太陽に照らされていた。

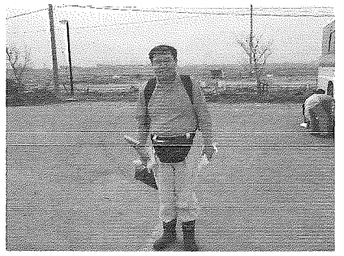
私はヘドロまみれ。作業着もタオルも手袋も、もう二度と使えない状態で、ボランティアセンターで着替えをすると、それまで身に着けていたほとんどの物を、ゴミとして処分せざるを得なかった。

その晩の宿は、仙台の奥座敷と呼ばれる作並温泉の高級旅館。おいしい食事、素晴らしい温泉、眺めの良い景色。内陸の作並に津波は届いていない。しかし営業中の温泉街に観光客の姿はまばらだ。「被災地」の観光業は困難な状況にある。

このツアーを企画したのは、同じく温泉観光地の修善寺を拠点とするNPO法人サプライズ。代表の飯倉清太氏は、震災後の危機に直面する観光業が、ボランツーリズムで頑張れないかと考えている。

私たちは宿で、昼間の体験について、大いに語り合った。36人の参加者の内、多くが若い学生やサラリーマンだった。ボランティア初体験の人も多い。これからの日本社会、これからの世界経済と、話は広がり、議論は深夜に及んだ。

バリバリの市民活動家ではない普通の人々が、休日を利用してボランティアに取り組み、何かを学ぶという新しいタイプの観光は、これから伸びていくと言われている。それが社会にどんなインパクトを与えるか、注目していきたいと思う。



撮影：水口 航(9izu)

NPO法人COCONET静岡

色で心のケアを～ココネット静岡～

心のストレス軽減に効果のある「色彩」の特徴を生かし、楽しく簡単にケア出来る方法や情報を提供する活動をしているNPO法人COCONET静岡は、先月5/22（日）コミュニティｆにて、**心に太陽 ハートアートの輪東日本応援プロジェクト** を開催しました。１枚¥500でメッセージを添えたパステルアートを描き、完成した作品は現地の学校や病院へ持参し、訪問先では子どもたち対象の共同ワークショップを行う予定です。また、集まった寄付金でクレヨンや画用紙を購入して贈ります。参加者からは「自分の気持ちが色に表現できて心が穏やかになりました。」と表情も晴れやかに。

今回の震災では子どもたちの心のケアが心配されています。色の持つチカラが東北に届くことを願いながら、このイベントのすばらしさをより多くの方々にも体験してもらいたいと、ココネット静岡では今後も活動を続けていくそうです。

http://coconet-color.com/

※COCONET（ココネット）は Color Communication Netwarkの略称です。

ボランティア支援情報

復興には長期的なボランティアが必須です。支援に関する情報収集は下記団体HP等を参考にしてください。

◆せんだいみやぎＮＰＯセンター
http://www.minmin.org/
TEL：022-264-1281
※専門をいかしたボランティア活動（医療･介護･教育･福祉･文化など）を希望される方に

◆ライフサポートセンター静岡
http://lifesc.blog102.fc2.com/
TEL：054-288-3715
※各府省庁自治体の関連情報などが日々更新され充実しています

◆静岡県ボランティア協会
http://www.chabashira.co.jp/~evolnt/
TEL：054-255-7357
※4月から毎週派遣されている静岡県災害ボランティアの募集と、その活動内容が報告されています

コミュニティf
夏の取り組み

6月1日から始まります。夏の節電対策。

政府は、ピーク時間帯として、7～9月の10－21時の需要引き下げを呼び掛けています。コミュニティｆでもピーク時の消費電力を、出来るだけ抑えることを目標として、節電に取り組みます。

会議室

・無理なく間引いて点灯
・利用は手前の会議スペースから
・設定温度 28℃
・パ -テーションをなくす

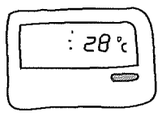
特別会議室（個室）

・エアコンの使用を控えるため、ドア開放で。
・設定温度 28℃

館内の照明

・必要最小限で点灯
・利用してないところは こまめに消灯

館内の空調



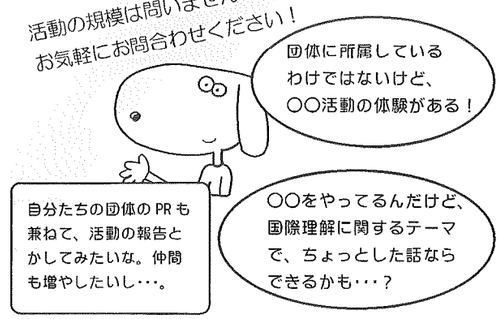
・なるべくエアコンでなく ファン（送風）で対応
・設定温度 28℃

節電 省エネルギー

ご理解・ご協力をお願いします

講師募集してます

コミュニティｆでは、NPO EXPOフォーラムを企画しております。まちづくり・教育・子育て・福祉・環境などなど、様々な市民活動分野で講師をしていただけるかたを、随時募集しています。興味がある方は、当センターまでぜひご相談ください！



ご協力ありがとうございます

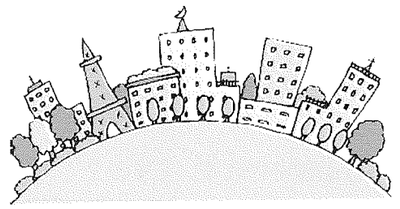
募金のお知らせ

皆様からご協力いただいた募金は、**被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト「つなプロ基金」**へ寄付し、NPOの様々な活動に役立てていただく予定です。

これまでに、コミュニティｆに集まった募金は**58,091円**（6月15日現在）でした。募金活動は引き続き行っていきます。ご協力お願いいたします。

そこが知りたい！

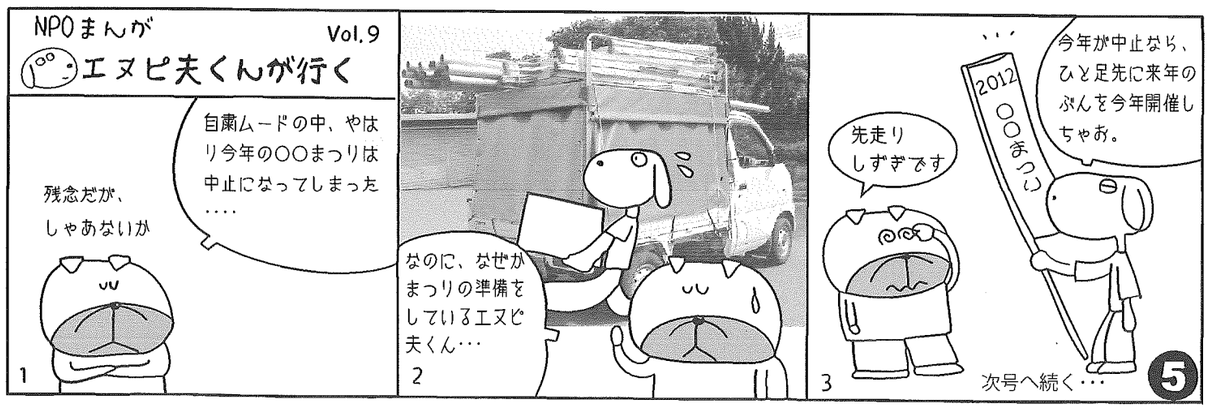
コラム vol.13 「コミュニティビジネスって何？」



◆最近、テレビドラマ化された高校生レストランは、地域の夢を乗せ、日本中どこにもないレストランとして、食物調理科の生徒が運営し、調理実習する施設として、平成14年にオープンしました。地域の食材を使い高校生が運営する活動は多方面から評価を受けています。まさに、レストランを媒体に次世代の育成・異世代・地域内外の交流による好循環が地域の活力を生み出し結果を出せた事業としてコミュニティ ビジネスの成功例といえます。

◆コミュニティビジネスは、地域住民が主体となり、地域の課題を解決することを目的とした事業は、継続できることがポイントになります。事業は身の丈に合った内容であり「地域にとって良いこと、社会に必要なこと」が求められ、地域全体の利益になることが鍵です。事業ビジネスはビジネスとして採算性がとれることも、活動を継続するための要素であり必要最低限の収益を確保することが求められます。

◆他の地域や組織と協働することで活動に広がりが生まれ(ネットワークを広げる)、提供できるサービスもコミュニティビジネスの魅力だと思います。



い・ろ・ん・な・な・か・ま

地域で活躍する市民団体を紹介します

今回は、障がい者をもつ親たちが中心となり、障がいのある人たちの手助けをする活動を続けている「NPO法人 富士市手をつなぐ育成会」の鳥居さんにお話を伺いました。

NPO法人 富士市手をつなぐ育成会

理事長　鳥居　巖 さん

Q. 富士市手をつなぐ育成会はどのような経緯で設立されたのですか？

昭和30年　障がいを持つ子供の親たちが子供たちの幸せを求め、「心身障害児（者）を守る会」を作りました。昭和41年　吉原・富士・鷹岡の３つの会が富士市の誕生でひとつにまとまりました。就学猶予という制度があり「学校に通う」という今ではごく当たり前の権利も奪われていた時代の先輩たちです。入所施設整備に力を入れていた時代です。日常生活の場としての作業所の設立・運営もしました。そして平成11年、会は「守る」から「育てる」に変化を遂げ、障がいをもつ本人たちの声に注目をし始めました。

平成18年、NPO法人として認められ、会員だけの会から大きくなりました。現在の会員は450人、賛助会員150人です。

Q. どのような活動をされていますか？

9つのグループが、それぞれのテーマで勉強会や懇談会、交流会などを開いています。本人活動もあります。地域での災害時要援護者のアピールもしています。

富士市からの受託事業は、たくさんのボランティアの方々が関わってくださる交流事業「クリスマス会」「ういんたーふぇすた」・余暇活動支援「カルチャー講座」、就労施設や会社との連携をとる就労支援「パワーアップ事業」の３つがあります。

日中一時支援事業「なんくる」では主に障害児の放課後の居場所を提供し、地域活動支援センター「アップルハウス」では成人に作業と居場所を提供しています。昨年3月には市役所2階に「cafeあっぷる」をオープンしました。

また会報「手をつなぐ」を年３回、会員向け情報誌「育成会だより」を毎月発行しています。

Q. どのような信念で会を運営されていますか？

地域で当たり前の生活ができる社会の実現に努力しよう！
自立に向けた活動を推進しよう！

Q. 今後、どのような会にしていきたいと考えていますか？

障がいを持っていても、生まれ育ったこの町で、親に頼らない生活ができる社会を作るために、会員それぞれが、できることから活動し、地域にそんな考えを広めていくことを目指しています。6・7月、家族支援ワークショップをコミュニティーfで行います。

市民活動団体からの催事・お知らせ

掲示板

講演

Challenge Seminar　vol.17
チャレンジセミナー
富士地域産業の抱える課題と再生の可能性

■日　時：平成23年7月10日（日）
10:00～11:30

■場　所：富士市文化会館ロゼシアター　4階第1会議室
（富士市蓼原1750）

■講　師：藻谷　浩介 氏
（㈱日本政策投資銀行 地域振興グループ地域支援班　参事役）

■対　象：中小企業・商店経営者・起業家・会社員など

■参加費：無料

■申込み：①名前②会社名または団体名③電話番号④メールアドレス⑤お住まいの地域（市町村）以上を明記のうえ、メールまたはFAXで富士市産業支援センターまでお申込みください。

富士市産業支援センター　f-Biz（エフビズ）
TEL 0545(30)6363 FAX 0545(30)6364
E-mail info@f-biz.jp

講演

富士市男女共同参加週間事業
"富士発・女と男のフォーラム"

女子高生と女子大生が見た 新興国『インド』の光と影 そしてインド人が見たニッポン

インドぶらり旅をした姉妹が感じた『新興国・インドの光と影』をたくさんの画像とともに紹介。ゲストは二人のインド行きのきっかけとなった浜松在住のビネイ・クマールさん。クマールさんが見た日本についてもたっぷりとお話を伺います。

■日　時：平成23年6月26日（土）
10:00～12:00

■場　所：富士市フィランセ　西館3階会議室
（富士市本市場432-1）

■参加費：無料（子ども、子連れも歓迎）

■申込み：電話またはメールで下記までお申込みください。

きらり交流会議・NPO法人　ゆめ・まち・ねっと
TEL 0545(65)4187
E-mail yume-machi-net@r5.dion.ne.jp
HPは「ゆめ・まち・ねっと」で検索

NPO支援助成金情報

*時間の経過に伴い、情報が更新されている場合があります。
詳細は、センターHPまたはスタッフまでお尋ねください。

助成制度名	カテゴリ	実施団体	応募締切
平成23年度　社会福祉助成事業募集	障害者・高齢者・福祉	公益財団法人　太陽生命厚生財団	6/30
東日本大震災にかかる支援活動助成	東日本大震災	日本財団	6/30
平成23年度　健康づくり活動費助成	健康	財団法人　しずおか健康長寿財団	6/30
ファイザープログラム　～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援	健康	ファイザー株式会社	6/30
平成23年度（第26回）社会福祉助成事業募集	社会福祉	財団法人　松翁会	7/31
平成23年度　一般助成事業の募集	福祉	社会福祉法人　清水基金	7/31
赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（第3次）	東日本大震災・ボランティア	中央共同募金会	7/31
福祉拠点の整備	福祉・リフォーム	日本財団	8/31